

(お 知 ら せ)



平成 23 年 6 月 3 日
日本原子力発電株式会社

敦賀発電所の近況について

敦賀発電所の近況について、以下のとおりお知らせします。

1. 運転状況について（6月3日現在）

1 号 機 沸騰水型（35万7千kW）	第33回定期検査中 定期検査の工程表は別紙1のとおり
2 号 機 加圧水型（116万kW）	1次冷却材中の放射能濃度上昇に伴い 原子炉停止中

（ ）内は定格電気出力

2. 故障等の状況について（平成23年5月3日～平成23年6月3日）

（1）法律に基づく報告事象

なし

（2）安全協定に基づく異常時報告事象

1) 敦賀発電所2号機1次冷却材中の放射能濃度の上昇について

敦賀発電所2号機は、定格熱出力一定運転中の平成23年5月2日、1次冷却材中の放射性ヨウ素および放射性希ガスの濃度の上昇が確認されたことから、燃料集合体から漏えいが発生した疑いがあると判断し、5月7日20時に原子炉を停止しました。今後、漏えい燃料の特定調査を実施します。

本事象による環境への放射能の影響はありませんでした。

（平成23年5月2日、5月6日発表済）

（3）保全品質情報等

1) 敦賀発電所2号機排気筒ガスモニタの一時的な指示値の上昇について

敦賀2号機は、原子炉停止中の5月8日に、排気筒ガスモニタ^{※1}の指示値が僅かに上昇していることを確認しました。この時、放射性ガスを化学体積制御タンク^{※2}からガス減衰タンクへ排出する作業を行っており、同作業を中断し、排気筒ガスモニタの指示値は通常値に戻りました。

また、5月21日、放射性ガスの漏えい原因調査のため、排出された放射性ガス中の水素を除去する水素再結合装置^{※3}周りの配管にある安全弁の出口側フランジボルトを緩めた際に、排気筒ガスモニタの指示値が僅かに上昇したため、直ち

にフランジボルトを締めなおしたところ、排気筒ガスモニタ指示値は通常値に戻りました。本事象による周辺環境への影響はありません。

(平成23年5月9日、21日お知らせ済み)

5月8日の排気筒ガスモニタ上昇原因の調査において、水素再結合装置周りの配管の溶接部等に複数の微小な漏えい箇所を確認しました。現在、詳細調査をおこなっています。

5月21日に排気筒ガスモニタが上昇した原因を調査したところ、漏えい箇所の配管の取り外し範囲を変更したことから、保修室員、メーカー設計者、協力会社作業責任者で現場確認を行っていた際、設計者は安全弁の入口側で配管を取り外すことを説明しましたが、作業責任者は安全弁すべてを取り外すものと誤認しました。また、保修室員は工事要領書が変更されていない状態で作業を許可していたことから、作業責任者が誤認していることに気づきませんでした。

その後、作業責任者の指示により作業が開始され、当該安全弁出口側フランジが緩められた際に、出口側の系統内に滞留していた放射性ガスが漏れ、排気筒から放出されたことが原因と推定しました。

対策として、現場確認時に作業内容の詳細な打ち合わせを行うこととしました。また、作業に変更があった場合は、工事要領書を変更し、保修室員が確認を行った後、作業を実施することを社内規程に明記し、関係者へ周知徹底しました。

(平成23年6月3日お知らせ)

3. 敦賀発電所3, 4号機 準備工事について(6月3日現在)

(1) 建設準備工事

現在、原子炉建屋背後斜面の追加切取工事、止水壁の構築工事、中央溪流砂防堰堤準備工事等を行っています。

(2) 仮設工事関係

浦底湾側において造成工事を行っていた仮設用地については、5月末で工事が完了しました。

なお、仮設用地内に設置するコンクリートプラント設備については、設置工事を継続して行っています。

4. 東北地方太平洋沖地震関係

当社は、平成23年3月11日に発生した、東北地方太平洋沖地震に起因する東京電力株式会社福島第一原子力発電所事故について、保安規定の変更(電源機能喪失時の体制の整備に関する措置の追記、非常用ディーゼル発電機2台確保)を行いました。

また、緊急安全対策の実施状況、外部電源の信頼性確保に係る実施状況を国へ報告いたしました。

なお、今後も全力を挙げて事故の情報収集、分析を継続し、新たな知見が得られた場合には必要な対策について、迅速かつ的確に反映してまいります。

詳細については別紙2をご参照下さい。

5. その他

(1) 敦賀発電所 1号機用新燃料の輸送について

平成23年5月17日、敦賀発電所1号機用の新燃料集合体64体を受け入れました。

(平成23年5月17日発表済)

(2) 敦賀発電所 2号機

屋外原水タンク上部での作業時における布ウエスの発火について

平成23年5月17日16時20分頃、発電所構内（非管理区域）の2号機原水タンクの耐震補強工事において、当該タンク上部で火気作業（溶接作業および研磨作業）を実施していたところ、作業場近傍の袋に収納していたウエス（布）が発火し、同じ袋に収納されていた浸透探傷検査用のスプレー缶が破裂したことから、直ちに現場作業員が現場に備え付けておいた消火用バケツの水で消火しました。

このため、16時55分に公設消防へ通報し、到着した公設消防による現場確認の結果、鎮火が確認されました。

本事象による周辺環境への放射能の影響はありません。また、けが人はいませんでした。

(平成23年5月18日お知らせ済)

本件につきまして、火気作業の安全確保のための対策として、今回の工事関係者に対して、スプレー缶およびウエスは不燃性容器で保管すること等のルールの再教育を行うとともに、火気作業に関する全ての工事関係者に対しこれらのルールを「防火チェックシート」に反映させるよう指導すること等を行います。

また、今回の事象について、発災時の消防機関への迅速な通報が求められており、その対策として、火災・発煙等発見時は中央制御室へ連絡することを火気作業エリアに表示、また、個人のヘルメット等に中央制御室への連絡徹底のシール貼付を行います。

(3) げんでんふれあいギャラリー

<個人・グループでの芸術活動、趣味の発表の場としてご利用頂いております。>

1) しゅんこうの和紙ちぎり絵作品展

[しゅんこうの和紙ちぎり絵の会（代表：随原 俊子様）7名の皆様による4回目のちぎり絵作品展です。四季折々の花、風景、静物等を水彩画を描いたように優しく、美しく表現した作品を31点展示しています。] (5/31~6/5)

2) わたしたちのビーズスタイルNo. 13

[「ビーズ工房」（代表：田中 喜美枝様）の皆様による、当ギャラリーでは6回目のビーズ作品展です。ビーズで作った、あじさい、お花を中心に、大人から子供まで楽しめるデコスーツ、普段使えるアクセサリ等冬から初夏にかけての作品を約800点展示予定です。] (6/7~6/19)

3) 双游展Ⅲ（墨と遊ぶ）

〔玄々社に所属されている、稲垣 楽水様、住田 紅苑様のお二人による書作品展です。書作品を屏風、パネル、立体作品等いろいろな物と形で表現した作品を約12点展示予定です。〕 (6/21～7/3)

(4) げんでんふれあい福井財団イベント

＜福井県内の芸術・文化振興活動として以下の事業を実施します。＞

文化講演会

講 師：大棟 耕介(ホスピタル・クラウン)

テーマ：「大人が笑えば子どもは笑う ～子どもは空気を敏感に感じている～」

会 場：福井県生活学習館 ユー・アイふくい

日 時：7月3日（日）

(5) 次世代層等への教育支援活動関連イベント

＜次世代層等への環境・エネルギー等に関する教育支援活動として、以下の事業を実施します。＞

“げん丸塾”夏休み自由研究アドバイス講座

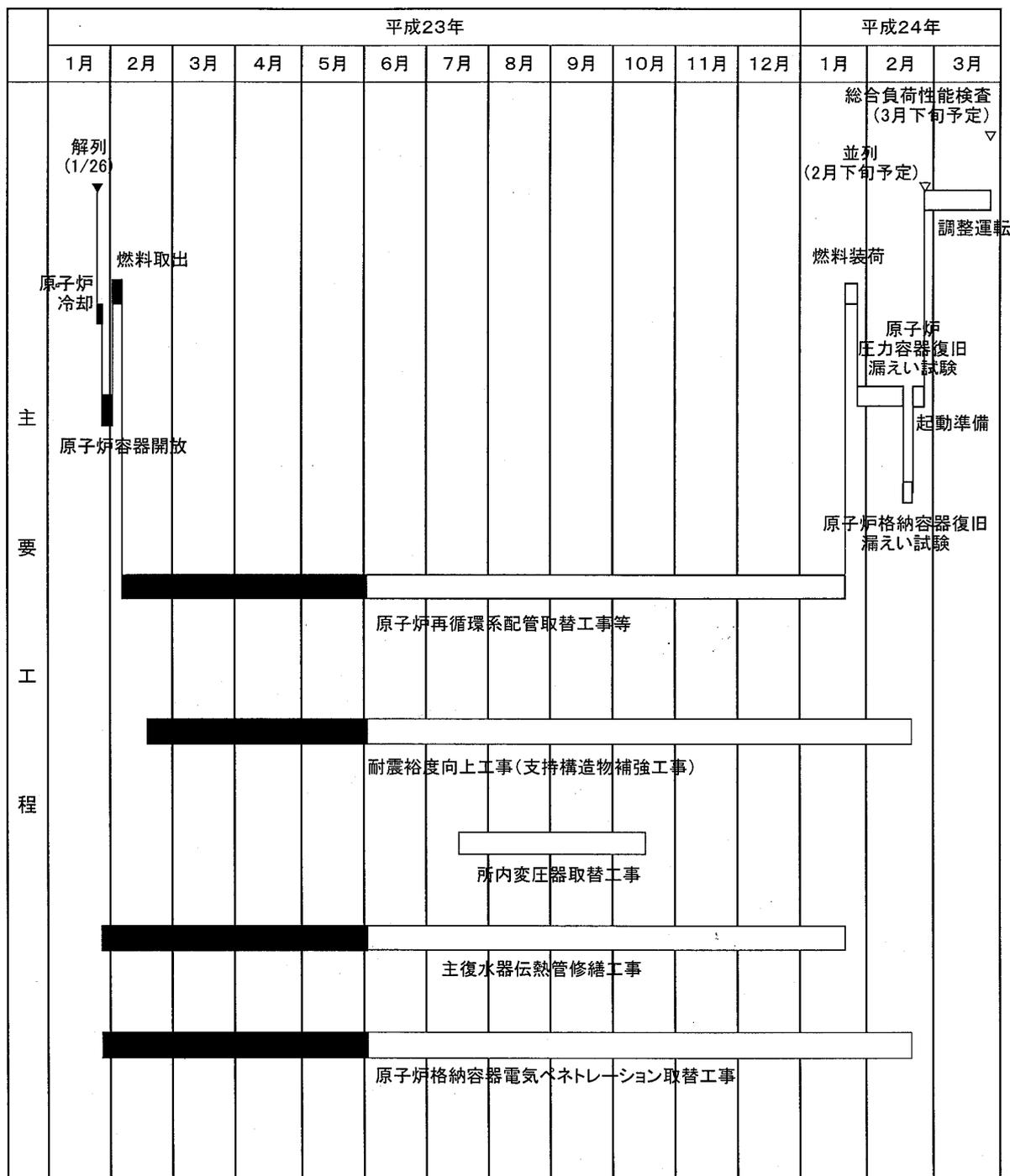
対 象：げん丸塾生（会員制）

会 場：中郷公民館 1階ホール

日 程：6月26日（日）

以上

敦賀発電所1号機 第33回定期検査工程表



東北地方太平洋沖地震への対応実績（5月3日以降）

(1) 当社発電所の保安規定の変更許可について

当社は、経済産業大臣からの指示および法令の改正に従い、当社発電所に関する保安規定の変更認可申請（電源機能喪失時の体制の整備に関する措置を追記）を4月8日に提出し、5月6日、経済産業大臣より認可をいただきました。

（平成23年5月6日お知らせ済）

また、原子力安全・保安院からの指示に基づき保安規定の変更申請（非常用ディーゼル発電機2台確保）を4月21日に提出し、5月11日、経済産業大臣より認可をいただきました。

（平成23年5月11日お知らせ済）

(2) 東海第二発電所および敦賀発電所における緊急安全対策の実施状況に係る評価結果の受領について

当社は、経済産業大臣からの指示に基づき緊急安全対策の実施状況を4月22日に報告し、4月25日、26日に原子力安全・保安院の立入検査を受け、5月11日、当社の緊急安全対策の実施状況は「妥当なものと評価する」との評価結果をいただきました。

（平成23年5月11日お知らせ済）

(3) 東海第二発電所および敦賀発電所における外部電源の信頼性確保に係る実施状況の報告について

当社は、原子力安全・保安院の指示に基づき外部電源の信頼性確保の実施状況をとりまとめ、原子力安全・保安院に報告しました。

（平成23年5月16日発表済）

(4) 東海第二発電所および敦賀発電所における新耐震指針に照らした既設発電用原子炉施設等の耐震安全性の評価結果の報告に係る情報の提出について耐震安全性評価結果報告

当社は、原子力安全・保安院の指示に基づき、耐震設計上考慮する必要がある断層に該当する可能性の検討に当たって必要な情報をまとめ、原子力安全・保安院に提出しました。

（平成23年5月31日お知らせ済）

当社は引き続き安全を最優先に、皆様に安心していただける発電所を目指し運営にあたり、今回の福島第一原子力発電所における事故を踏まえて、必要な対策を速やかに実施し、発電所の安全確保に万全を期してまいります。

(4) 支援の実績について

当社及び当社関係会社では、東京電力並びに関係自治体等に対し、応援要員の派遣、消防ポンプ車や放射線測定器等の資機材の提供を行っています。

1) 要員派遣実績（5月31日現在）

当社及び当社関係会社から15人（このうち敦賀地区からは5人）派遣中。

（3月15日以降の累計は、全社合計で延べ1,308人・日）

2) 資機材の提供実績（5月31日現在）

消防ポンプ車 1台

放射線測定器類（サーベイメータ、ポケット線量計等） 約130台

防護服 約4,900着

その他（放管資機材）

以上